

科目名	国際政治論特講	担当者	シノブ 信夫 タカシ 隆司	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義は、以下のふたつを目的とする。</p> <p>ひとつは、国際政治とは何か、現在の国際政治状況において何が問題になっているのか、問題の解決策として何が考えられているのかについて、総合的な理解を得ることができるようにすることである。</p> <p>もうひとつは、日本外交においてもっとも重要な対米関係の理解に資することである。とくに、米兵の刑事裁判の問題を取り上げる。これにより、個別・具体的な事例を通して、日米間に横たわる本質的な問題とは何かを理解できるようにする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>国際政治の全般的な理解に資するとともに、具体的な事例を通して、問題の掘り下げ方、資料収集・分析の仕方を学び、国際政治の問題をいかに掘り下げるか・考えるかを学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の国際政治事象について、歴史的経緯を踏まえながら、体系的に説明できるようにする(知識・想起) 歴史的事象の理解にあたり、国政政治に関する理論がどのように役立っているのか、論理的かつ批判的な思考ができる(知識・解釈) 具体的な事例を通して、その問題点は何か、どのような考察が可能かを展開できる(技能・問題解決) 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>Manaba-Folio・メール・Zoom などを利用し、教員と院生との間で、双方向による指導をおこなうこととする。</p> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>レポートの作成1本につき、最低 45 時間を要する。具体的には、基本教材の理解 (10 時間)、レポート課題に関する参考文献の理解 (10 時間)、レポートの初校作成 (15 時間)、レポートの加筆・修正 (10 時間) である。</p>		
スケジュール	<p>(1) 最終レポートの提出は、学事暦で定められた期限によること。</p> <p>(2) レポート初校の提出は、前期では7月中旬、後期では11月中旬までとする。その過程で、必要に応じ、質疑応答をおこなう。</p> <p>(3) 初校レポートに修正を施し、訂正を加えたうえで、期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70 %	<ul style="list-style-type: none"> レポート課題に沿って、レポートが作成されていること。 レポート作成に必要なリサーチが十分におこなわれていること。 レポートとしての形式を備えていること。
	観察記録	30 %	<ul style="list-style-type: none"> 教員とのやりとりが十分におこなわれていること。 初校へのアドバイスが最終稿に反映されていること。
履修者への要望	<p>国際政治が扱うテーマは、往々にして、われわれの身近な生活とは無関係なように思われるかもしれませんが、しかし、軍事的な安全保障の問題は言うに及ばず、通商問題あるいは地球環境問題などは、われわれの生活に密接に関連しています。</p> <p>そこで、世界ではあんなことが起こっているんだ、こんなことが起こっているんだという事実関係を知るだけでなく、それがわたしたちの暮らしにどのように影響を及ぼすのか、あるいは、今後の日本社会がどのように変わっていくのかという視点から、自らの問題としてとらえ、自分なりの考え方を養っていった欲しいと思います。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄（編） 教材名： 『国際関係論（第3版）』、弘文堂、2018年。 ISBN9784335002335 2,200円＋税
	本書は、「国際関係論」というタイトルがついているが、内容は「国際政治」と変わらない。国際政治の歴史、国際政治の現状分析、国際政治の理論、現代国際政治の課題についてまんべんなく取り扱われており、国際政治全般を理解するのに役立つ。
参考図書	参考図書はかならずしもどれか一冊というわけではないので、受講者の履修の進行に応じ、その都度、適切な参考図書を紹介することとする。
履修上のポイント	(1) 国際政治学が誕生したといわれる第一次世界大戦以降から今日までの国際政治の歴史的な流れを理解する。 (2) 国際政治理論とはなにか、その役割は何か、理論はどの程度役立つのかを理解する。 (3) 冷戦終焉後のグローバリゼーション、安全保障問題、日本外交の概要を理解する。 (4) 現代国際政治の課題である南北問題、地球環境問題、非国家アクターや市民社会のあり方を理解する。
レポート課題 1	冷戦期の国際政治と冷戦後の国際政治とを比較しながら、何がどのように変わったのか、国際政治の理論と関連づけて論じなさい(4,000字程度)。 留意点： 歴史的経緯と理論とを結びつけて考える。
レポート課題 2	基本教材 I の第 II 編および第 III 編から、自ら関心を有するテーマをひとつ選択し、そのテーマの概要・問題点を論じるとともに、そのテーマに関する私見を述べなさい(4,000字程度)。 留意点： 客観的に論じる部分と私見はきちんとわけること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 信夫隆司 教材名： 『米兵はなぜ裁かれないのか』、みすず書房、2021年。 ISBN9784622090380 3,800円＋税
	本書は、日本に駐留する米兵が日本法に触れる刑事上の罪を犯した場合、その者がどの程度裁かれているのかを明らかにしたものである。こうした問題が世間の耳目に触れる場合は多くはないが、今日の日米関係を理解するうえにおいて重要なテーマである。
参考図書	信夫隆司 『米軍基地権と日米密約—奄美・小笠原・沖縄返還を通して』岩波書店、2019年。 ISBN9784000247269 5,800円＋税
履修上のポイント	(1) なぜ米兵の刑事裁判権が問題となるかを理解する。 (2) 1995年以降において、日米地位協定の運用がどのように改善されたのかを理解する。 (3) 他国、とりわけ、フィリピン、韓国、アイスランド、オランダ、ドイツ等がアメリカと締結した地位協定の刑事裁判権条項がどのようになっているかを理解する。 (4) 刑事裁判権における公務犯罪、刑事裁判権放棄、身柄拘束の問題を理解する。
レポート課題 1	日米地位協定における刑事裁判権条項は、1995年以降、運用の改善がはかられている。どのようなことを契機に、いかに運用が改善されたのか、その問題点を論じなさい(4,000字程度)。 留意点： 地位協定の規定と運用が改善された点とを明確にすること。
レポート課題 2	基本教材 II の「第二部 変わらない地位協定」の第四章から第六章のうち、自ら関心のあるテーマを選択し、そのテーマを論じるとともに、私見を述べなさい(4,000字程度)。 留意点： 客観的に論じる部分と私見はきちんとわけること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修（第 1 章 国際関係論はどのような学問か，第 2 章 20 世紀の国際関係）
第 2 回	教材の学修（第 3 章 今日の国際関係）
第 3 回	教材の学修（第 4 章 グローバリゼーション，第 5 章 現代の安全保障）
第 4 回	教材の学修（第 6 章 北東アジア，第 7 章 国際社会における日本の位置づけ）
第 5 回	教材の学修（第 8 章 国際関係理論，第 9 章 国際レジーム論）
第 6 回	教材の学修（第 10 章 リージョナリズムと欧州統合，第 11 章 南北問題）
第 7 回	教材の学修（第 12 章 地球環境問題）
第 8 回	教材の学修（第 13 章 非国家アクター，第 14 章 市民社会）
第 9 回	教材の学修（第 15 章 国際紛争・国内紛争）
第 10 回	レポート課題 1，2 の初校提出
第 11 回	添削指導に基づき，関連文献のリサーチ
第 12 回	添削指導に基づき，加筆・修正
第 13 回	添削指導に基づき，加筆・修正
第 14 回	添削指導に基づき，加筆・修正
第 15 回	最終稿提出

基本教材 2

第 1 回	教材の学修（序章 刑事裁判権問題とは何か）
第 2 回	教材の学修（序章 刑事裁判権問題とは何か）
第 3 回	教材の学修（第一章 日米地位協定の運用改善）
第 4 回	教材の学修（第一章 日米地位協定の運用改善）
第 5 回	教材の学修（第二章 米比軍事基地協定の失効）
第 6 回	教材の学修（第三章 米韓地位協定の改正）
第 7 回	教材の学修（第四章 公務犯罪）
第 8 回	教材の学修（第五章 刑事裁判権放棄）
第 9 回	教材の学修（第六章 身柄拘束）
第 10 回	教材の学修（終章 刑事裁判権条項をどのように変えるか）
第 11 回	レポート課題 1，2 の初校提出
第 12 回	添削指導に基づき，加筆・修正
第 13 回	添削指導に基づき，加筆・修正
第 14 回	添削指導に基づき，加筆・修正
第 15 回	最終稿提出